

千客万来賞



寄付者名が書かれた提灯が天井から下がる

天神橋筋商店連合会

商店街文化と芸能文化で街再生

大阪・天神橋筋は、南北約2.6kmにわたり1000軒もの店が立ち並ぶ「日本で一番長い商店街」である。大阪天満宮の参拝道であり、創業100年を超える老舗も軒を連ねるが、より魅力ある街にしようとカルチャーセンターを設けたり、イベント企画や商品開発などにも取り組んできた。

この商店街での寄席を提案した桂三枝師匠と、天神橋筋商店連合会の土居年樹会長により、大阪天満宮に定席の小屋を建てるのが検討される。かつて天満宮周辺には8軒の小屋があり、芸能と商いのまちとして栄えた、それを復活させようとの構想である。天満宮もこれに賛同し、土地を無償で提供。2005年には商店連合会と上方落語協会が中心となり、小屋の建設に向けた募金活動が始まった。

商店街にはのぼりやポスターを掲出し、一口1万円からの個人寄付を呼びかける。土居会長は大阪中の企業、団体に働きかけ、上方落語協会はメディアを通じて周知に努めた。その結果、総額2億4,000万円、緞帳や建築金物など3,000万円相当の寄贈を受けて、

メセナ大賞部門

06年9月「天満天神繁昌亭」が完成。軒下や客席の天井からは寄付者の名前が記された提灯がびっしりと下がり、約250の客席を埋めてこけら落としを迎えた。

開設以来、大阪の新名所として繁昌亭は連日満員、天神橋筋も40%の集客増となった。商店連合会では新たにNPO法人上方落語支援の会を設立し、小屋の管理にあっている。昼席を中心に多彩な顔ぶれが登場し、夜席は噺家による意欲的なプログラムが組まれる。また朝席はNPOの企画で、小中学生のための落語講座を行うなど、両者の連携で順調な運営を続けており、開設1周年の経済効果は116億円とも試算された。

「街あきんど」の心意気が多くの人を動かし、市民文化のまち・大阪の健在ぶりを世に示したのである。

繁昌亭のこけら落としを祝い商店街を練り歩く



評価ポイント ● 市民・企業を結束して上方芸能を盛り立てようとする「町衆」の気概を感じる。● 繁昌亭ができて人の流れが変わった。商店街活性としても刺激的な好例である。

団体プロフィール (2009年3月末現在)

所在地	大阪府大阪市	会員数	350店舗
組織形態	商店連合会	URL	http://tenjin123.com/
設立年	1994年		